地域経済季報 ◎平成30年10~12月期

松江商工会議所

総評 今期は、猛暑、台風が続いた７～９月と比べると温暖な日が多かったため、観光客数が好調に推移した。貸切バスの利用やＦＤＡの仙台便を利用した東北地方の観光客の増加が目立った。一方、製造業や建設業では、人手不足に加えて原材料の高騰により利益率が悪化する傾向にある。来期は、観光オフシーズンにあたるため、冬季対策として開催する各種イベントへの期待が高まる。また、初売り、クリアランスセール、春の新生活用品を新調するなど季節ごとの需要を売上につなげたい。

		前期状況（7~9月期）	今期状況（10~12月期）	来期見通し（1~3月期）	調査事業所のコメント
建設業		→	→	↗	公共工事は、持ち直しているが低水準で推移。一方、一戸建てやマンションなどの住宅は、例年並みで推移。工事の請負契約等は、消費税増税の経過措置の基準日が4月1日に決まったため、3月末まで駆込み需要が見込まれる。
製造業		→	→	→	中小企業の多くでは、人手不足のため設備をフル稼働できず製造能力は既に限界に達していることに加え、原材料も高騰してきているが、販売額には中々転嫁できず売上が横ばいであるのに対し利幅が次第に薄くなってきている現状である。生産能力の高い設備投資意欲は高いが、大手への納品が優先されており納期が１年待ちのものもある。
卸売業		↘	↘	↘	西日本を中心に発生した平成30年7月豪雨により落ち込んだ物流・売上は多少の戻りはあったものの好転はせず。売上額の減少や仕入単価の上昇を理由に業況は悪化している旨の回答が多く、昨年度、豪雪により一時物流が滞ったことから来季も悪化の見通しを立てている事業所が多数あった。
小売業	衣料品	↘	↘	→	秋物を前倒しで9月から投入したりして需要を喚起するものの、今期の後半にかけては、気温が比較的温暖な日が続いたことから冬物のコート類の動きにあまり伸びがなかった。新年を迎えても購買意欲の刺激には繋がらず、バーゲンまで待つ傾向もあり、春の新生活用に衣料品を新調する需要を獲得していくしかない状況が続く。
	家電	↗	→	→	今期は4Kテレビ（40型前後・15万円程度の価格帯）の買換え需要が堅調であった。また、一般家庭のオール電化と温水器の老朽化によるエコキュート器への買換え需要があった。来期は消費税の10%への引上げを見越し、老朽化した設備の買換え需要に期待。
	総合量販店	↘	→	→	今期は、秋冬物商品や化粧品の順調な動きとともに、各種催事により来店客数も好調であった。来期は、初売りやクリアランスセールを控えており引き続き集客に期待したい。
	スーパー	→	→	↘	生鮮食品の支持率アップにより、一人当たりの買上点数増に結び付いたものの、昨年高騰を見せた野菜の低価格傾向により売上は減となっている。また、比較的高い気温が続いており、冬物の動きに影響が生じている。来期は横ばいと予想するも、株価低迷による景気感の変化によっては下向きに転ずる可能性も懸念。
	特産品	↘	↗	↘	天候等の影響で、前期は伸び悩んでいたが、今期は神在月の影響が大きく、県内・県外からの来客数が増加。外国人観光客の来客も増加傾向にあった。来期の見通しとしては、例年のことだが、雪の影響で観光客の減少が考えられるため、売上の伸びは期待できない状況。
サービス業	飲食	→	↗	→	今期は、観光シーズンに入り、天候に恵まれたことにより、観光客の需要が好調であり、特に、FDAの仙台便により東北地方の観光客の増加が目立った。しかしながら忘年会の需要が年々減少していることにより、売上は前年同期比若干増加。来期は、最も売上が落込む時期であることから厳しい状況が見込まれるので、観光客の増加に期待したい。
	旅館・ホテル	↘	→	→	前期では猛暑と西日本豪雨の影響により伸び悩みを見せていた観光客も、今期に入り天候にも恵まれ、松江城国宝化効果や、やまなみ・しまなみ街道開通の効果の一巡後も底堅く推移したものの、新たな宿泊施設の開業の影響等もあり、売上げは前年同期比横ばい。来期は、観光オフシーズンに入るため売上は微減するものと予測されるが冬季対策のイベントに期待。
	運輸・旅客	↘	→	↗	旅客業は、通院の高齢者の利用希望が集中する平日の午前中は、慢性的な運転手不足により需要に応えることが出来ない状況になっている。貸切バスの利用は、好天に恵まれたこともあり昨年とほぼ同様に推移。来期は昨年の天候不順による業況悪化と比べ好転することを期待。運輸業は、SNSを活用し宅急便のお届け予定を事前に通知し、顧客の都合に合うタイミングで荷物を配送することで、安定した配送品質の提供と従業員の負担軽減を図る動きが出ている。

※売上の前年同期比について↗→↘により表しています。